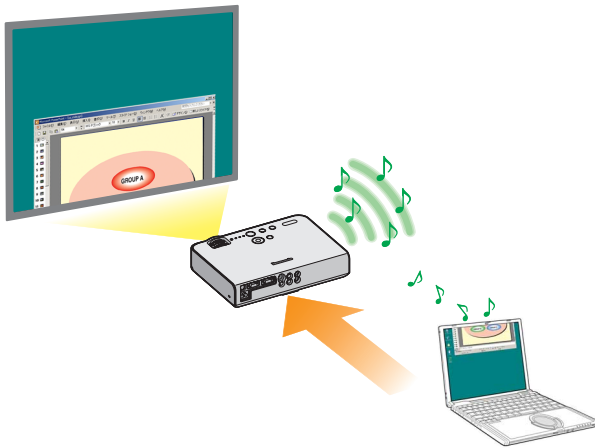


## セカンダリーディスプレイ送信機能 活用編

(TH-LB50NT/TH-LB55NT/TH-LB60NT)



※ プロジェクターの図は TH-LB50NTの例です。

# セカンダリーディスプレイ送信機能 活用編

---

## もくじ

こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(1) .....	3
こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(2) .....	4
こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(3) .....	5
こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(4) .....	6
セカンダリーディスプレイとは? .....	7
必要なシステム構成 .....	9
PowerPointを使った操作手順 .....	10
パソコンにだけメモを表示させながらプレゼンテーションする .....	10
メモや議事録を取りながらプレゼンテーションする .....	14
他の資料を参照しながらプレゼンテーションする .....	17
別々のアプリケーションを表示させる手順 .....	21
初期状態でのディスプレイ配置 .....	21
ディスプレイ間でウィンドウを移動する .....	22
ディスプレイの配置を変更する .....	25
Q&A .....	28

本書では、パソコンの操作はWindows XP を例に説明しています。

# こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(1)

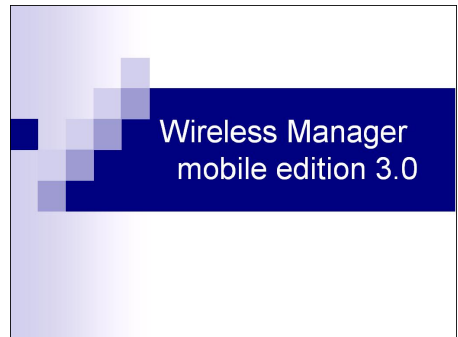
- プレゼンテーションの発表で原稿を覚えるのに苦労したことはありませんか？
- 他のメンバーが作成したプレゼンテーション資料を発表する場合、戸惑ったことはありませんか？
- 自分が作成したプレゼンテーション資料を、他のメンバーが意図を間違えて発表したら困るな、と思ったことはありませんか？
- プレゼンテーション中に次のスライドがどんな内容だったか忘れてしまったことはありませんか？
- 進行状況によりプレゼンテーションの構成を変更したいと思ったことはありませんか？

こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能を使えば、Microsoft Office PowerPoint（以下、PowerPointと表記します）でメモ書きや経過時間・スライドのサムネイルを見ながらプレゼンテーションすることができます。

## 【パソコン画面】



## 【プロジェクター画面】



PowerPointを使うと、パソコンの画面には、スライドショー作成時に書き込んでおいたメモ書き（ノート）や、スライドショー開始からの経過時間を表示させながら、プロジェクターには、通常のスライドショー画面を表示させることができます。

また、スライドショーを中断することなく特定のスライドに飛ぶことができますので、時間の関係でいくつかスライドを省略したり、数枚前のスライドを一時的に表示させたり、といった場合でも、スムーズな表示が行えます。

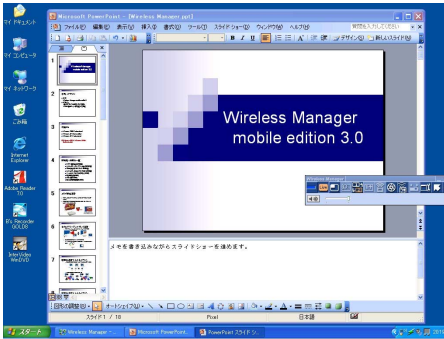
(⇒操作手順は10ページ)

## こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(2)

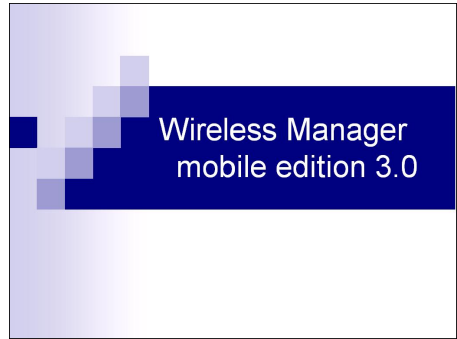
- プロジェクターで会議の資料を投写している最中に、議事録を取りたいと思ったことはありませんか？

こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能を使えば、PowerPointでメモ欄に書き込みながらプレゼンテーションすることができます。

### 【パソコン画面】



### 【プロジェクター画面】



PowerPointでスライドショーの表示先をプロジェクターに設定しておけば、スライドショー実行中でもパソコン画面には通常のPowerPointのウィンドウ画面が表示されます。

プロジェクターにはスライドショーを表示させたまま、パソコン画面では質疑応答のメモなどをPowerPointのメモ欄に書き込むことができます。

(⇒操作手順は14ページ)

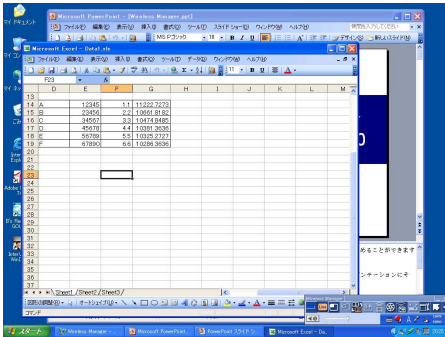
# こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(3)

## PowerPointを使用する場合

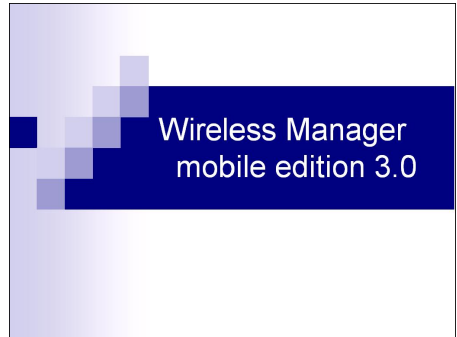
- 会議で、プレゼンテーションの補足資料をこっそり見たい時がありませんか？

こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能を使えば、PowerPointで別の資料を見ながらプレゼンテーションすることができます。

### 【パソコン画面】



### 【プロジェクター画面】



PowerPointでスライドショーの表示先をプロジェクターに設定しておくと、スライドショー実行中でも、パソコン画面で通常のWindows操作が行えます。

スライドショーを中断することなく、プロジェクターにはスライドを表示させたまま、パソコン画面に別の資料を呼び出して参照することができます。

(⇒操作手順は17ページ)

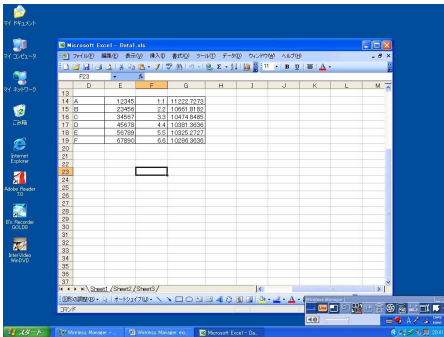
# こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能が威力を発揮(4)

## PowerPoint以外のアプリケーションを使用する場合

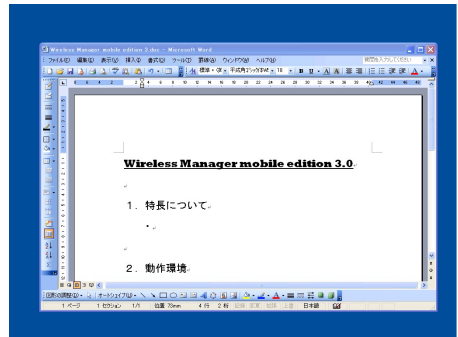
- 会議で、人に見せたくない資料をこっそり見たい時がありませんか？
- 会議で次の資料を準備したいときパソコンを操作すると見えてしまって困ったことはありませんか？

こんな時、セカンダリーディスプレイ送信機能を使えば、パソコン画面とプロジェクター画面とで別々のアプリケーションを表示させることができます。

### 【パソコン画面】



### 【プロジェクター画面】



あるアプリケーションはパソコン画面に表示させ、別のアプリケーションはプロジェクター画面に表示させます。

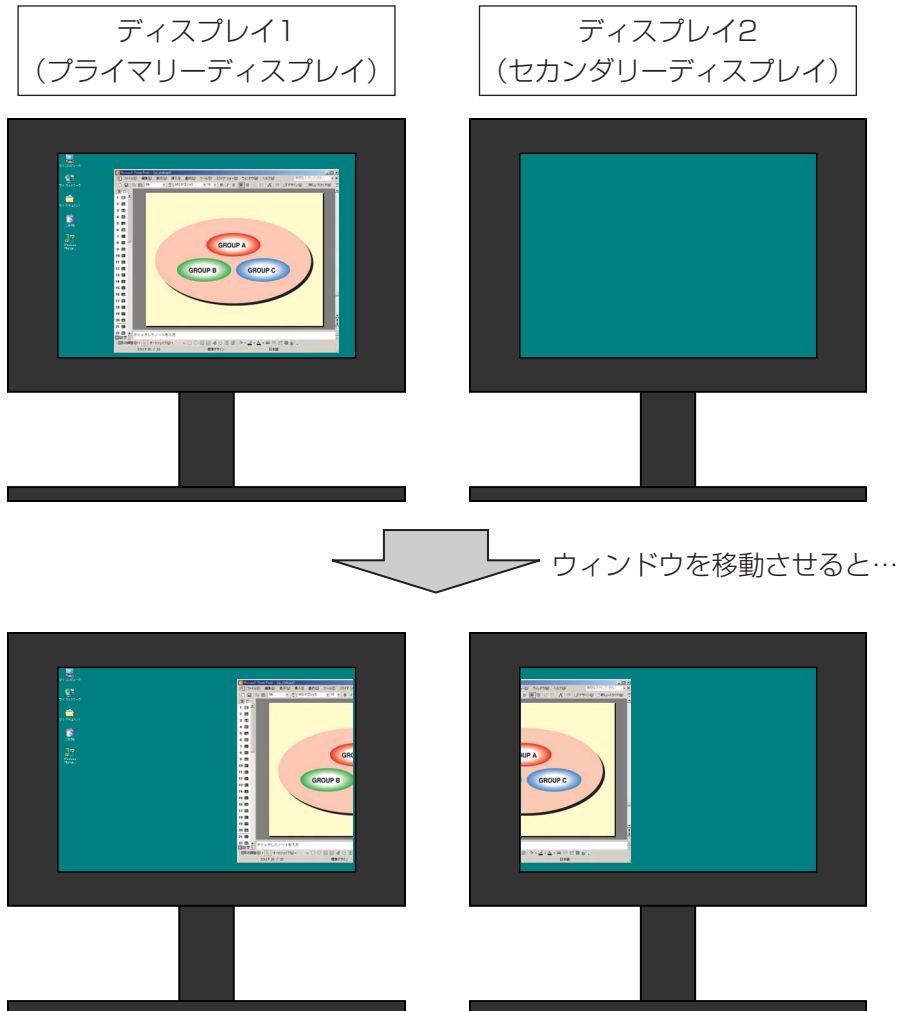
例えば、プロジェクターにはMicrosoft Office Word（以下、Wordと表記します）で文書を表示しておき、パソコン画面ではMicrosoft Office Excel（以下、Excelと表記します）を呼び出して別の資料を参照しながら説明を行うことができます。

(⇒操作手順は21ページ)

# セカンダリーディスプレイとは？

1台のパソコンで2台のディスプレイを使用し、2台のディスプレイの画面があたかも1つにつながっているかのように見せる機能を、マルチディスプレイ機能と呼びます。Microsoft Windows XPやMicrosoft Windows 2000でサポートされています。(外部接続RGB端子もしくは追加のビデオアダプターカードが用意されている必要があります。)

この機能で、1つ目のディスプレイを「プライマリーディスプレイ」、2つ目のディスプレイを「セカンダリーディスプレイ」と呼びます。



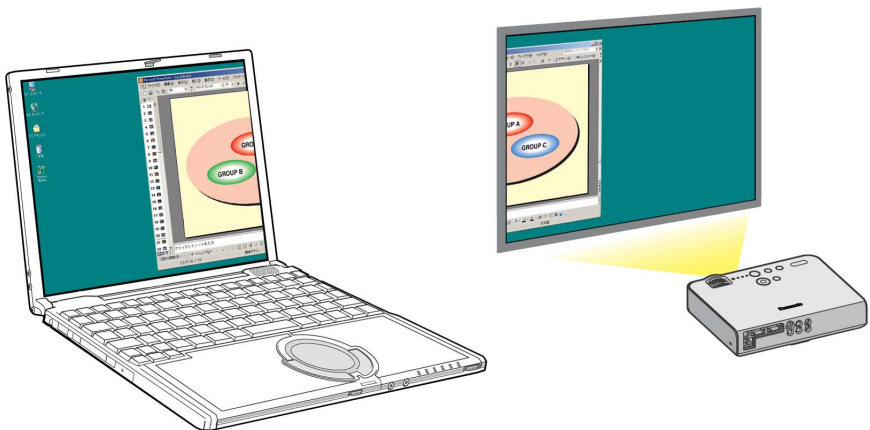
## セカンダリーディスプレイとは？（つづき）

Wireless Manager mobile edition 3.0（以降、Wireless Manager ME 3.0と表記します）では、外部接続RGB端子もしくは追加のビデオアダプターカードが無くてもパソコンにもともと用意されているディスプレイをプライマリーディスプレイ、プロジェクターをセカンダリーディスプレイとして扱うことができます。

例えば、ノートパソコンの場合なら、

- ・ノートパソコンの液晶画面 = プライマリーディスプレイ
- ・プロジェクターの画面 = セカンダリーディスプレイ

となります。



パソコン  
=プライマリーディスプレイ

プロジェクター  
=セカンダリーディスプレイ

従来はパソコンとプロジェクターで同じ画面を表示していましたが、この機能を利用すると、もう1画面増えた形になり、パソコンとプロジェクターで別々の画面を表示することができます。

これにより、PowerPointなどで、スマートなプレゼンテーションが行えます。



# 必要なシステム構成

---

セカンダリーディスプレイを使用するには下記の条件を満たすコンピューターが必要です。

OS: Microsoft Windows 2000 Professional/  
XP Home Edition/ XP Professional

CPU: PentiumⅢ以上もしくは互換のプロセッサ搭載  
(ライブモード使用時は800 MHz以上を推奨、動画再生時は  
1 GHz以上を推奨)

メモリー: 256 MB以上

ハード条件: CDまたはDVDドライブ (ソフトウェアのインストール、取扱  
説明書の閲覧)

802.11 b/g対応のワイヤレスLAN内蔵か、外付けの  
802.11 b/g対応ワイヤレスLANカードが正常に動作するこ  
と。ただし、802.11 b/g対応のワイヤレスLANであっても、  
802.11 gでプロジェクターと接続できない場合があります。

アプリケーションソフトウェア:

Microsoft Office PowerPointで「発表者ツール」を使用す  
る場合は PowerPoint 2002 以降

## お知らせ

上記のシステム環境以外で使用された場合、および自作コンピューターで使  
用された場合の動作保証は一切いたしませんので、あらかじめご了承ください。

**上記の条件を満たす、すべてのコンピューターについて動作  
を保証するものではありません。**

# PowerPointを使った操作手順

## パソコンにだけメモを表示させながらプレゼンテーションする

PowerPointを使って、パソコンにだけメモ書きや経過時間・サムネイルを表示させながらプレゼンテーションを行う場合は、PowerPoint(バージョン2002以降)に標準で付属している「発表者ツール」を使用します。

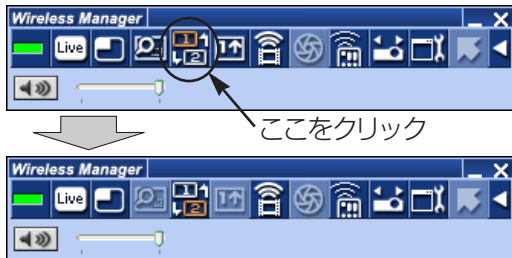
PowerPointの「発表者ツール」を使ってプレゼンテーションするには、下記の手順で操作します。

1 Wireless Manager ME 3.0を起動し、プロジェクターを選択します。

2 ランチャーが表示されますので、右端にある[▶]をクリックして、フルランチャー表示に変更します。



3 [▶] をクリックします。



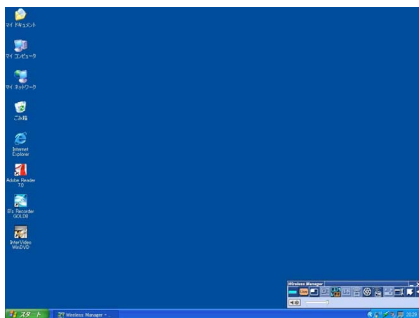
(⇒次ページにつづく)

## PowerPointを使った操作手順 (つづき)

- 4 [Live] をクリックします。  
プロジェクターに壁紙だけの画面が表示されます。



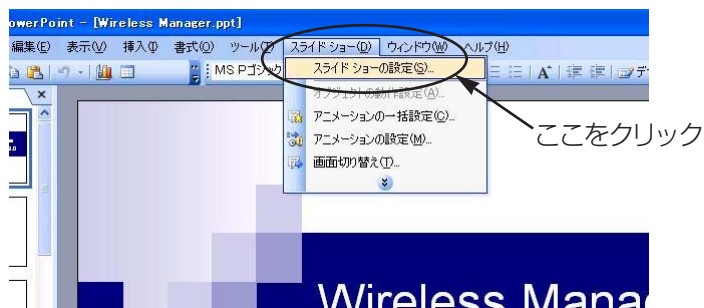
【パソコン画面】



【プロジェクター画面】



- 5 PowerPointを起動して、[スライドショー] → [スライドショーの設定] をクリックします。「スライドショーの設定」画面が表示されます。



(⇒次ページにつづく)

## PowerPointを使った操作手順（つづき）

6 「スライドショーの設定」画面の「複数モニター」の項目で、「スライドショーの表示」を「モニター2（既定のモニター）」※1に変更し、「発表者ツールを表示する」にチェックを入れて「OK」をクリックします。



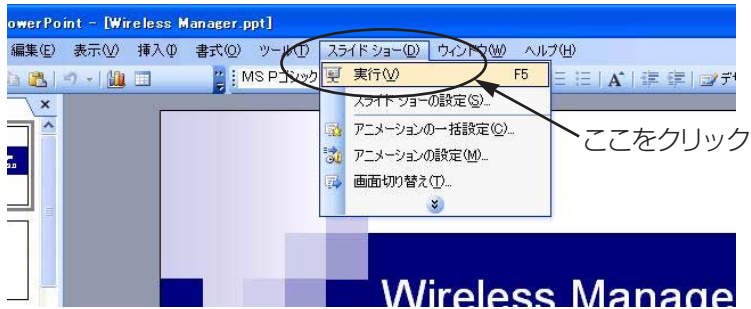
これで、「発表者ツール」を使ってプロジェクター画面にスライドショーを表示する準備ができました。

※1：ご使用のパソコンによっては、表示内容が異なる場合があります。

(⇒次ページにつづく)

# PowerPointを使った操作手順 (つづき)

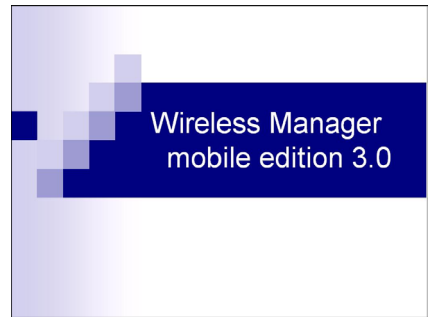
7 [スライドショー]→[実行]をクリックして、スライドショーを開始します。パソコン画面には「発表者ツール」が表示され、プロジェクターにはスライドショーが表示されます。



【パソコン画面】



【プロジェクター画面】



## お知らせ

セカンダリーディスプレイ送信機能を先に終了すると、「発表者ツール」の画面が正しく映らなくなる場合があります。必ず先にスライドショーを終了させておいてください。

# PowerPointを使った操作手順 (つづき)

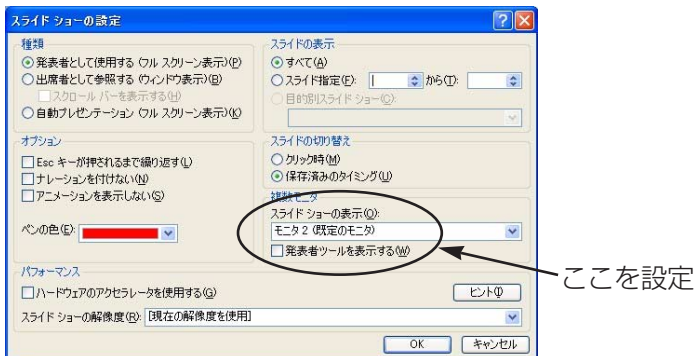
## メモや議事録を取りながらプレゼンテーションする

PowerPointでプレゼンテーション中に、気づいた点や質疑応答の内容をPowerPointのメモ欄に書き込む場合は、下記の手順で操作します。

- 1 Wireless Manager ME 3.0を起動し、プロジェクターを選択します。
- 2 ランチャー内の [ ] をクリックし、[Live] をクリックします。(10～11ページの操作手順2～4)
- 3 PowerPointを起動して、[スライドショー] → [スライドショーの設定] をクリックします。「スライドショーの設定」画面が表示されます。



- 4 「スライドショーの設定」画面の [複数モニター] の項目で、[スライドショーの表示] を [モニター2 (既定のモニター)] \*1に変更します。[発表者ツールを表示する] にチェックが入っている場合は、チェックを外します。設定ができれば [OK] をクリックします。

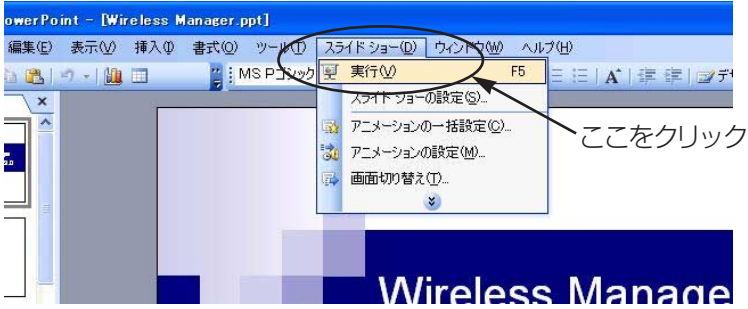


※1：ご使用のパソコンによっては、表示内容が異なる場合があります。

(⇒次ページにつづく)

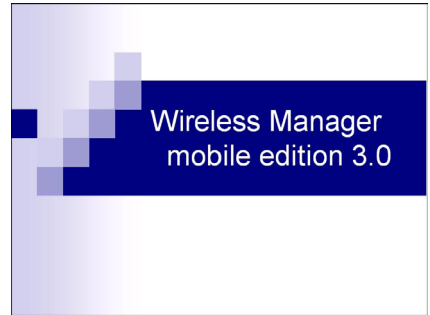
# PowerPointを使った操作手順 (つづき)

5 [スライドショー] → [実行] をクリックして、スライドショーを開始します。パソコン画面はそのまま、プロジェクターにはスライドショーが表示されます。

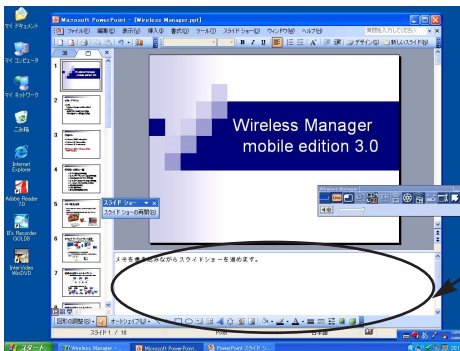


【パソコン画面】

【プロジェクター画面】



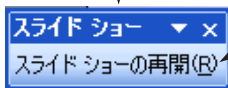
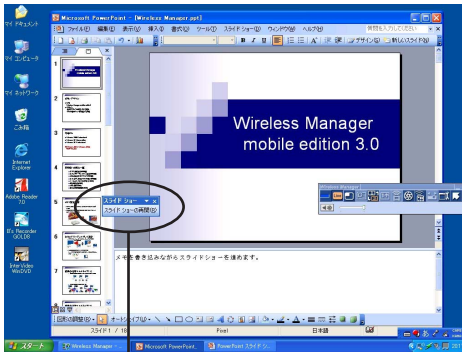
パソコン画面には、通常のPowerPointの画面が表示されていますので、質疑応答の内容などをメモ欄に書き込みながらスライドショーを進行することができます。



(⇒次ページにつづく)

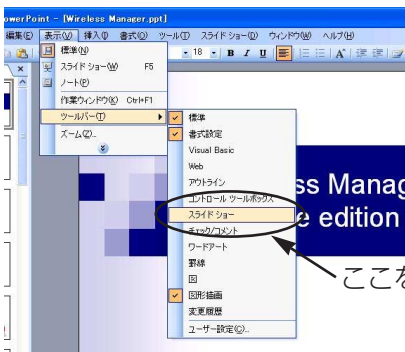
## PowerPointを使った操作手順（つづき）

**6** この時、PowerPointの画面には、「スライドショー」という小さなツールバーが表示されます。再びスライドショーを操作するには、[スライドショーの再開] をクリックします。



ここをクリック  
(表示される位置はパソコンによって異なる場合があります。)

[スライドショー] ツールバーが表示されていない場合は、PowerPointの [表示] → [ツールバー] で [スライドショー] を選ぶと表示されます。



ここをクリック


**7** 再びスライドショーが操作できるようになりますので、[↑] [↓] [PgUp] [PgDn] キーでスライドショーを進行することができます。

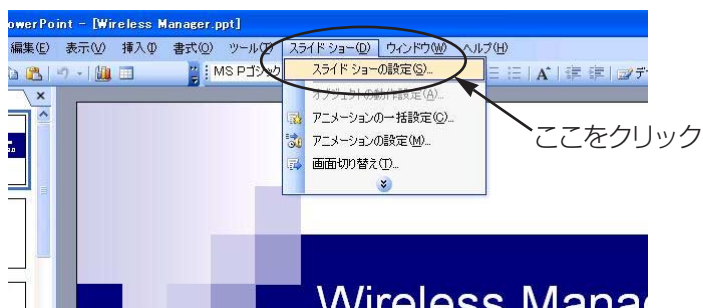


# PowerPointを使った操作手順 (つづき)

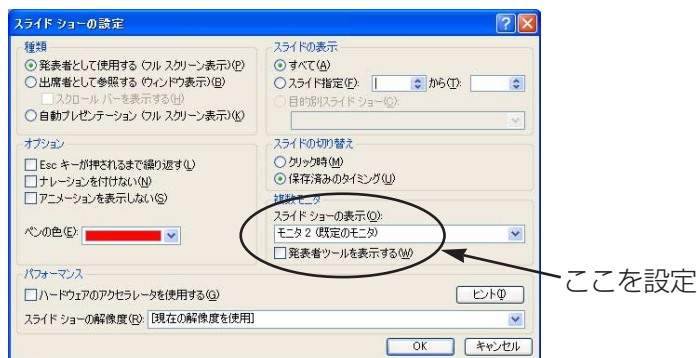
## 他の資料を参照しながらプレゼンテーションする

スライドショー実行中でも、パソコン画面では別のアプリケーションを起動して、操作することができます。下記の手順で操作します。

- 1 Wireless Manager ME 3.0を起動し、プロジェクターを選択します。
- 2 ランチャー内の [  ] をクリックし、[ Live ] をクリックします。(10～11ページの操作手順2～4)
- 3 PowerPointを起動して、[スライドショー] → [スライドショーの設定] をクリックします。「スライドショーの設定」画面が表示されます。



- 4 「スライドショーの設定」画面の [複数モニタ] の項目で、[スライドショーの表示] を [モニタ2 (既定のモニタ)] ※1に変更します。[発表者ツールを表示する] にチェックが入っている場合は、チェックを外します。設定ができれば [OK] をクリックします。

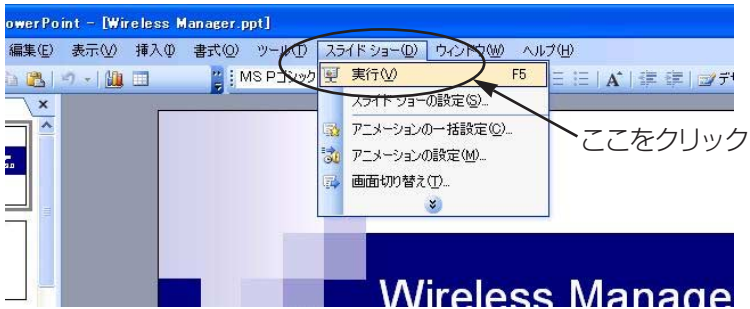


※1：ご使用のパソコンによっては、表示内容が異なる場合があります。

(⇒次ページにつづく)

## PowerPointを使った操作手順 (つづき)

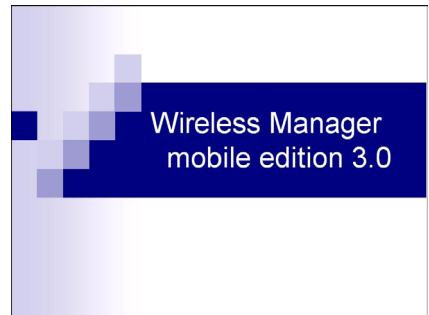
5 [スライドショー] → [実行] をクリックして、スライドショーを開始します。パソコン画面はそのまま、プロジェクターにはスライドショーが表示されます。



【パソコン画面】



【プロジェクター画面】

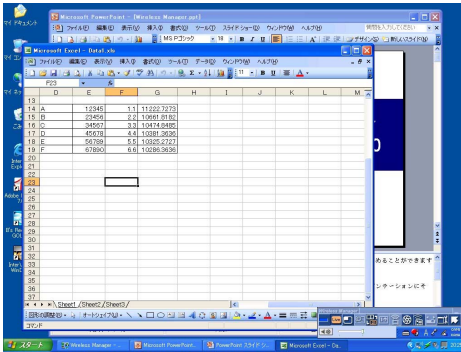


パソコン画面では、通常のWindows操作により別のアプリケーションを起動することができます。別のアプリケーションを起動しても、プロジェクターにはスライドショーが表示されたままです。例えば、Excelを起動して、補足資料を参照した後、スライドショーの操作に戻る場合は以下の手順で操作します。

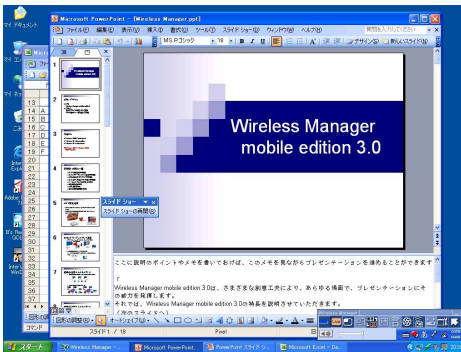
(⇒次ページにつづく)

## PowerPointを使った操作手順 (つづき)

**6** Excelを起動して補足資料を開きます。Excelを参照して、説明を行います。



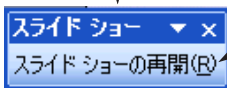
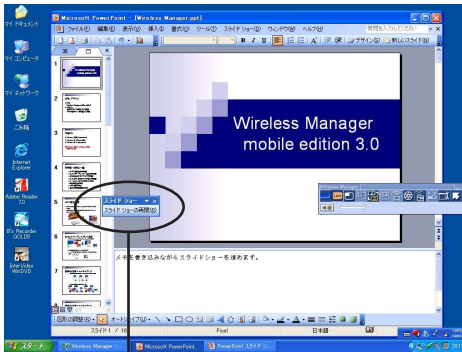
**7** スライドショーを先に進めるために、PowerPointのウィンドウの見えている部分をクリックして、PowerPointを操作できるようにします。



(⇒次ページにつづく)

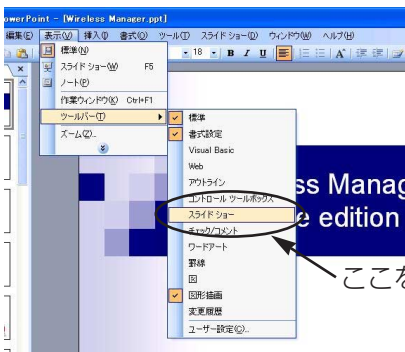
## PowerPointを使った操作手順（つづき）

8 この時、PowerPointの画面には、「スライドショー」という小さなツールバーが表示されます。再びスライドショーを操作するには、[スライドショーの再開] をクリックします。



ここをクリック  
(表示される位置はパソコンによって異なる場合があります。)

[スライドショー] ツールバーが表示されていない場合は、PowerPointの [表示] → [ツールバー] で [スライドショー] を選ぶと表示されます。



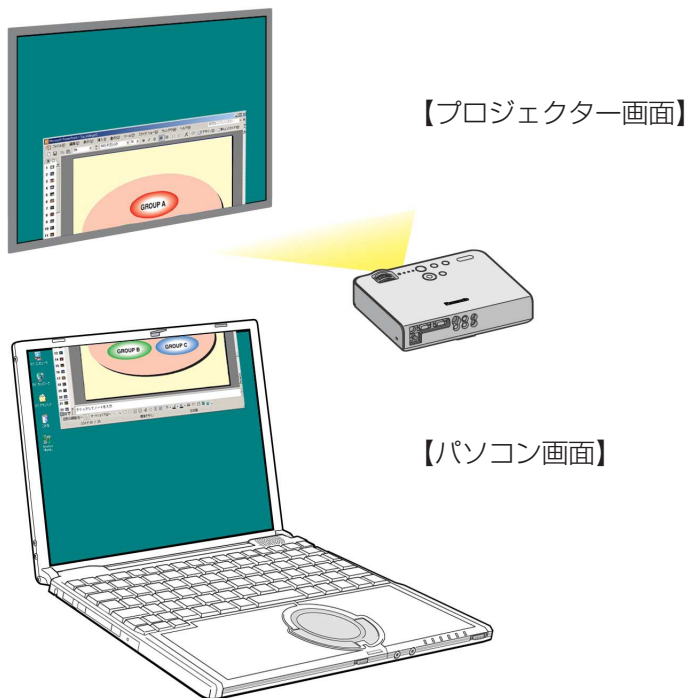
以上で、再びスライドショーを操作できるようになります。[↑] [↓] [PgUp] [PgDn] キーなどでスライドショーを操作してください。

# 別々のアプリケーションを表示させる手順

PowerPoint以外のアプリケーションを使ってプレゼンテーションを行う場合は、手動でウィンドウをプロジェクター画面の方に移動させて操作します。

## 初期状態でのディスプレイ配置

Wireless Manager ME 3.0の初期状態では、プロジェクター画面はパソコン画面の上側につながった形で配置されています。

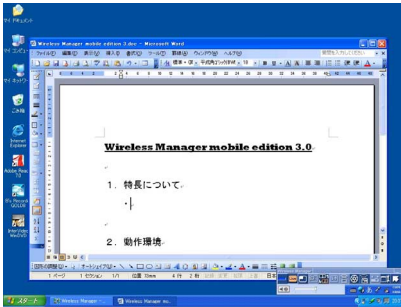


# 別々のアプリケーションを表示させる手順 (つづき)

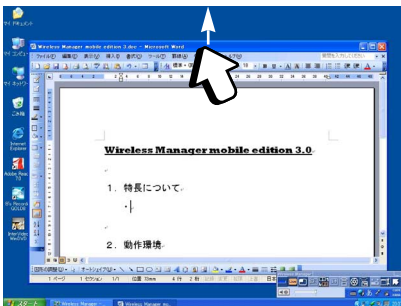
## ディスプレイ間でウィンドウを移動する

パソコン画面に表示されているアプリケーションの画面をプロジェクターの方に移動させるには、下記の手順で操作します。

- 1 Wireless Manager ME 3.0を起動し、プロジェクターを選択します。
- 2 ランチャー内の [ ] をクリックし、[Live] をクリックします。(10～11ページの操作手順2～4)
- 3 プロジェクターに表示したい（プレゼンテーションに使いたい）アプリケーションを起動します。  
【パソコン画面】



- 4 アプリケーションのタイトルバーでマウス左ボタンを押し、そのままの状態でもうす画面の上部の方へ移動（ドラッグ）させます。



### お知らせ

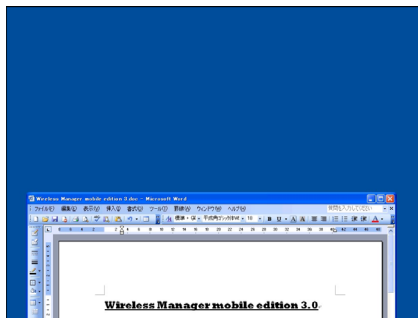
アプリケーション画面（ウィンドウ）を最大化表示している場合は、移動させることはできません。元のサイズに戻してから操作してください。

(⇒次ページにつづく)

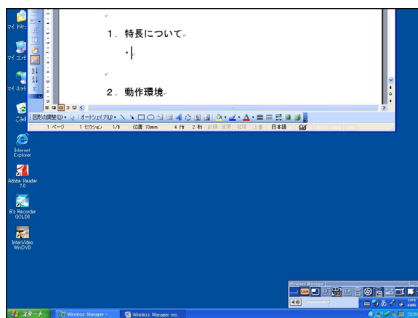
## 別々のアプリケーションを表示させる手順 (つづき)

- 5 パソコン画面の上端からさらに上の方向へ移動させると、はみ出た部分はプロジェクターの方に表示されます。

【プロジェクター画面】

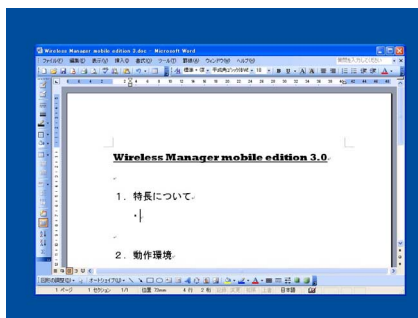


【パソコン画面】

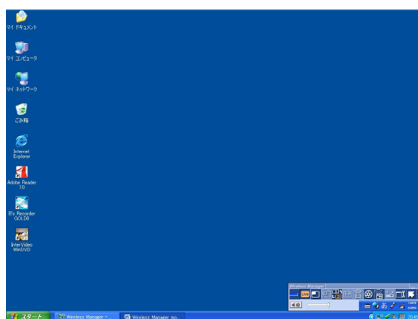


- 6 そのウィンドウ全体がプロジェクターに表示されるようになるまで、そのまま上方に移動させます。そのウィンドウ全体がプロジェクターに表示されれば、マウスボタンを離します。

【プロジェクター画面】



【パソコン画面】

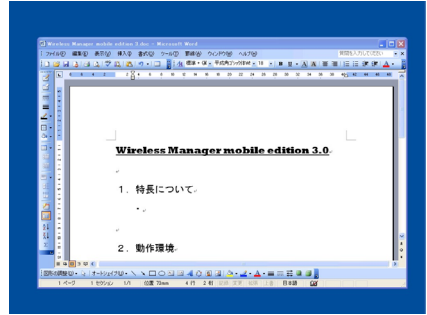


(⇒次ページにつづく)

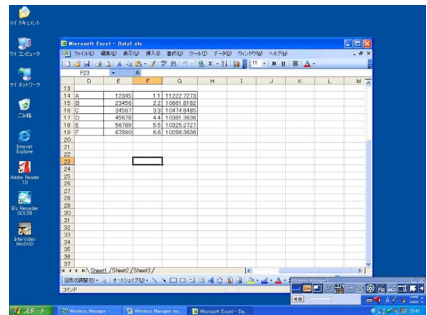
## 別々のアプリケーションを表示させる手順（つづき）

7 パソコン画面でのみ参照したいアプリケーションを起動します。これで、パソコン画面とプロジェクター画面とで、別々のアプリケーション画面を表示できます。

【プロジェクター画面】



【パソコン画面】



プロジェクター画面に表示しているアプリケーションをパソコン画面に戻す場合は、(6)とは逆に、そのアプリケーションのタイトルバーでマウスボタンを押し、そのままの状態画面の下の方に移動させてください。

### お知らせ

マウスカーソルはパソコン画面・プロジェクター画面どちらにでも自由に移動します。一方の画面内にマウスカーソルが表示されていない場合は、もう一方の画面に表示されています。



# 別々のアプリケーションを表示させる手順 (つづき)

## ディスプレイの配置を変更する


初期状態では、パソコン画面とプロジェクター画面は上下方向に配置されていますが、「画面のプロパティ」を操作すれば配置する方向を自由に変更することができます。

例えば、上下方向から左右方向に変更する場合は、下記の手順で操作します。

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] → [デスクトップの表示とテーマ] → [画面] を選択して、「画面のプロパティ」を表示し、[設定] タブをクリックします。

### お知らせ

デスクトップの空いている部分でマウスを右クリックし、表示されるメニューから [プロパティ] を選んでも、「画面のプロパティ」を表示す



[設定] タブで操作します

プロジェクター画面を  
表します

パソコン画面を  
表します

「画面のプロパティ」では、  
[3] → プロジェクター画面  
[1] → パソコン画面  
を表します。

### お知らせ

[2]はもともとパソコンに用意されている2画面表示機能用のアイコンです。パソコンの外部接続RGB端子に接続する場合に使用します。パソコンによっては[3]がなく、[2]がプロジェクター画面に割り当てられている場合があります。

(⇒次ページにつづく)

## 別々のアプリケーションを表示させる手順 (つづき)

- 2 [3] のアイコンでマウスの左ボタンを押し、そのままの状態 で [1] と [2] の間に移動させ、マウスボタンを離して (ドラッグ&ドロップ)、 [適用] もしくは [OK] をクリックします。



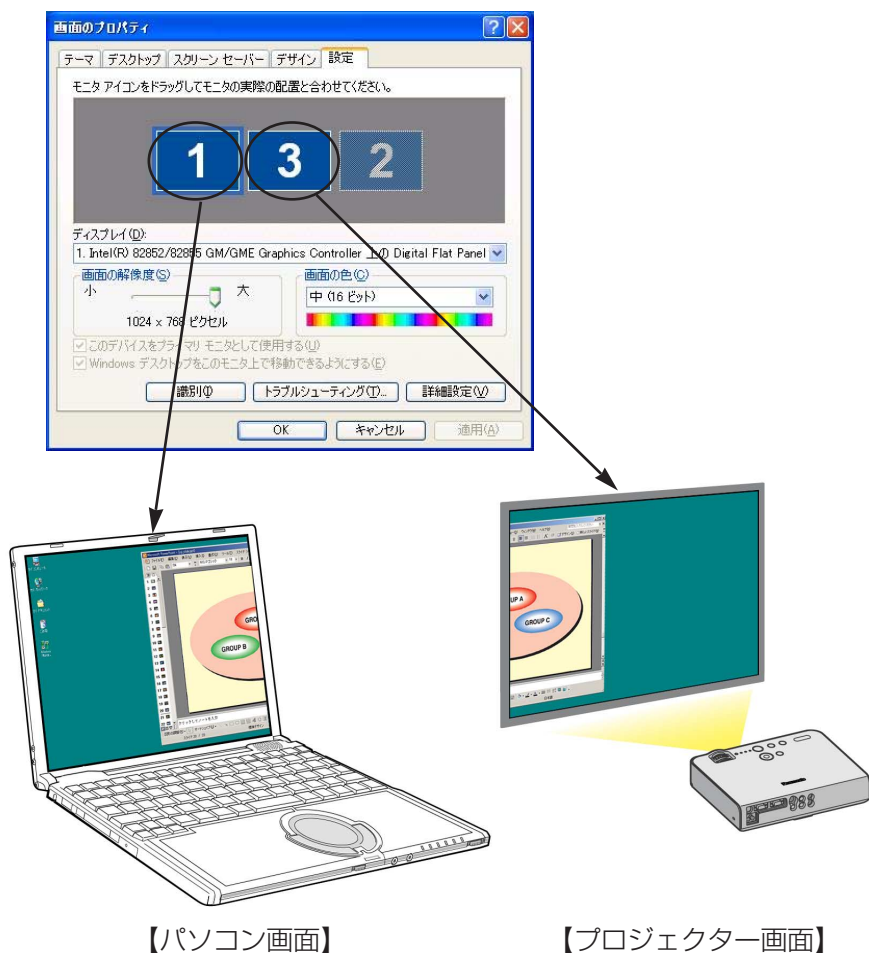
マウスボタンを押したまま、移動させる

移動させたら  
クリックします

(⇒次ページにつづく)

## 別々のアプリケーションを表示させる手順 (つづき)

3 [1] と [3] が左右方向に配置されます。実際のパソコン画面とプロジェクター画面も左右方向につながって配置されます。



### お知らせ

- プロジェクター画面の画面サイズは1024×768です。他のサイズに変更することはできません。
- プロジェクター画面の配置を変更すると、次回起動した時も、その設定で表示されます。


# Q & A

## Q1 セカンダリーディスプレイはどうすれば使えますか？

セカンダリーディスプレイを使用するためには、パソコンとプロジェクターをワイヤレスで接続するか、もしくはRGBケーブルで接続する必要があります。

### ・ワイヤレスで接続

パソコンのビデオアダプターカードがマルチディスプレイに対応している必要はありません。

Wireless Manager ME 3.0のランチャーで、 をクリックし、ライブを開始するだけで、セカンダリーディスプレイが使用できるようになります。



### ・RGBケーブルで接続

パソコンのビデオアダプターカードがマルチディスプレイ（2画面表示機能）に対応している必要があります。

パソコンの外部接続RGB端子にRGBケーブル経由でプロジェクターを接続して、「画面のプロパティ」 - [設定] を選択し、[2]のアイコン（セカンダリーディスプレイ）を選択してマウス右ボタンをクリックし [接続] を選択します。



## Q & A (つづき)

---

### Q2 RGBケーブル接続でもセカンダリーディスプレイを使えますが何故ワイヤレスなのですか？

---

通常セカンダリーディスプレイを使用する場合は、必ずパソコンとプロジェクターをRGBケーブルで接続する必要があり、レイアウトフリーを実現できません。

しかし、セカンダリーディスプレイをワイヤレス接続とすることで、ケーブルの制約がなくなり自由にレイアウトすることができます。

### Q3 セカンダリーディスプレイ送信機能を使用するには追加のビデオアダプターカードが必要ですか？

---

Wireless Manager ME 3.0を使用すれば、追加のビデオアダプターカードは必要ありません。

### Q4 セカンダリーディスプレイ送信機能は他の機種（TH-LBシリーズ）でも使用できますか？

---

TH-LBシリーズのネットワークに対応したすべての機種（TH-LB1ONT/TH-LB2ONT/TH-LB3ONT）で使用できます。

ただし、Wireless Manager ME 3.0が動作する環境が必要です。

### Q5 セカンダリーディスプレイ送信機能はどのモードで使用できますか？

---

セカンダリーディスプレイ送信機能は、動画送信およびワンショット以外で使用できます。

### Q6 4画面インデックススタイル/16画面インデックススタイル時に、セカンダリーディスプレイ送信機能で表示している画像がパソコンに表示されますがこれはなぜですか？

---

セカンダリーディスプレイ送信機能を使用すると、パソコンとプロジェクターとで別々の画面を表示することができますが、インデックススタイル時は、プロジェクターで表示される画面が小さくなって操作が難しくなります。このため、プロジェクターに表示される内容を「セカンダリービューアー」でパソコン画面上に表示させています。

ただし、「セカンダリービューアー」上ではアプリケーションソフトウェアの操作はできません。

### Q7 プロジェクター画面とパソコン画面の位置関係はどうなりますか？

初期設定では、プロジェクター画面はパソコン画面の上側につながった形で配置されています。

パソコン画面の上側に配置されている理由は、プロジェクター画面にアプリケーションが意図せず表示されるのを防ぐためです。ただし、プロジェクター画面の配置は、使いやすいように自由に変更することができます。(⇒操作手順は25ページ)



### Q8 ランチャーの [ ] が、グレー表示されて選択できない場合はどうしたらいいですか？

Wireless Manager ME 3.0を「インストールしないで使ってみる」で使用している場合は、セカンダリーディスプレイ送信機能は使用できません。

### Q9 セカンダリーディスプレイ送信機能で表示している途中でライブを終了した場合、不具合がありますか？

プロジェクター画面に表示されていたアプリケーションは、自動的にパソコン画面に移動して表示されます。

**Q10** プロジェクター画面で表示していたアプリケーションを、  
プロジェクター画面上で終了させた場合、  
次にそのアプリケーションを起動したときはどこに表示されますか？

セカンダリーディスプレイ送信機能を使っている場合は、プロジェクター画面の元の位置に表示されます。

セカンダリーディスプレイ送信機能を終了させている場合には、通常パソコン画面上に表示されますが、アプリケーションによってはプロジェクター画面があるものとしてそのままの位置に表示されるものがあります。その場合、パソコン画面には表示されなくなりしますので、再度セカンダリーディスプレイ送信機能を使ってプロジェクター画面を表示させ、アプリケーションをプロジェクター画面からパソコン画面に移動させてください。

# 商標について

- Microsoftとそのロゴ、Windows、Windows Media、Microsoft Office、Word、Excel、PowerPoint、DirectXは、米国Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

## ご注意

- 本製品のソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本製品のソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品のソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

## ワイヤレスプロジェクター サポートセンター

本機の設定やオペレーションでご不明なことがございましたら  
なんなりとお問い合わせください。

電話番号：**0120-872601**

受付時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）  
9:00～12:00 13:00～17:00

URL: <http://panasonic.biz/projector/>

※書面や電話/FAXを使用しお答えする場合や、返事をさしあげるお時間を頂く  
こともございます。

※お電話頂く際には、番号をお確かめの上、お間違えのないようお掛けください。

松下電器産業株式会社  
システム事業グループ

TQBH0170-1(J)  
M0306-1036

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 電話(06) 6901-1161